

令和8年度 第1回学校運営協議会 議事録
【学校評価部会・キャリア部会・地域連携部会】

1 日 時 令和8年 5月25日（月曜日）15時30分～17時00分

2 会 場 県立横浜清陵高等学校 会議室（大、小）

3 出席者 学校運営協議会委員 7名（1名欠席）
県立横浜清陵高等学校教職員 9名

4 校長挨拶

本年度が単位制普通科となって10年目の節目であり、現行の4カ年計画の折り返し地点（3年目）にあたることを説明した。本年度はこれまでの教育活動を検証し、次期計画へ繋げる年であるとしている。

5 令和7年度 学校評価報告書実施結果について
事務局より昨年度の振り返りと成果を報告。

6 令和8年度 学校評価報告書目標設定について

校長より、探究活動を通じた生徒の変容の検証、生徒の「自治」の育成、および4大進学率7割の維持と質の向上を重点目標とする方針が示された。

【委員より質疑・意見】

- ・評価の観点に「具体的な検証方法」を加えるべきであると指摘した。また、比較対象を「前期対後期」ではなく「前年度対今年度」とすることで、生徒の変化をより具体的に捉えることが可能であると助言した。また、生徒指導の充実、HP編集担当の増員についても言及があった。
- ・ICT利活用において、AIとの付き合い方やネット社会でのモラル・マナーの指導を検討する必要がある旨を述べた。
- ・私立高校無償化の中で「選ばれる高校」であり続けるための特色作りが重要と述べた。
- ・地域連合とのコミュニケーション強化の要望あり。
- ・探究活動の成果を評価する一方、生徒の清掃意識（特にトイレ）向上の必要性を指摘。PTAと生徒が協力して清掃を行う機会を提案した。
- ・小学校と高校との交流の実例について説明があった。

・外国につながる生徒の現状について質問あり。これに対し事務局より、在県枠（各年次 12～13 名）の生徒は学校によく溶け込んでおり、一般枠でも外国につながる生徒が増加している状況が回答された。

7 部会別協議の報告について

キャリア部会：事務局より日東駒専やG-MARCHの合格者が増加している。高い目標へのチャレンジ精神をどう育てるかが課題と報告された。協議では、探究的な学びを進路実現に結びつける工夫や、英語教育（英検等）の強化、他校の事例研究の必要性、学力の伸びを正當に評価する仕組みについて議論された。

地域連携部会：事務局より地域清掃や近隣施設との交流を継続する方針が確認された。協議では特に地域防災が課題として共有され、本校は補充的避難所ではあるが、災害時に高校生が地域の「実働部隊」として貢献できる体制づくりについて意見が交わされた。また、地域会館の活用提案もあった。

8 全体会：まとめおよび要望事項、その他

[委員からの要望および意見等]

・学校運営における要望や確認がなされた。「ヒヤリハット」などは全教職員で共有し、組織的な防止策を講じるべきであるとの助言あり。

・夏期講習の重複回避や、総合型選抜向けの基礎学力対策・小論文対策の充実が求められた。これに対し事務局より講習の時間配分を昨年からすでに調整・対応しており、入試対策講座（31講座中 11 講座等）も昨年なみに充実させると回答された。

9 閉会と今後の予定

・委員からの指摘を真摯に受け止め、安全管理等を徹底することを約束した。また、戦略的な広報活動を強化し、本校の特色をアピールしていく方針を改めて示し、閉会となった。

次回の第 2 回学校運営協議会は、令和 8 年 12 月 10 日（木）に開催される予定である。当日は公開研究授業および研究協議も併せて実施されることとなっている。